

I. 序

ルターの宗教改革五百年を三年後に控えた日本の福音派教会は今、時満ちて、ひとつの変革期を迎えているように思われる。それを反映してか、今回の全国研究会議テーマ、「福音主義神学、その行くべき方向 —— 聖書信仰と福音主義神学の未来 ——」には、福音主義教会のアイデンティティにかかわるきわめて本質的で重要な、かつ未来志向の意味合いが色濃く込められている。加えて、準備委員長の示す期待は、①今日置かれている状況と動向の分析と情報の提示、②問題点と主要な争点の指摘、③我々福音主義を標榜する諸教会におけるガイドラインの提示、であり、この時期に撰理的に立ち会うこととなった我々が、過去に公の福音派研究会議で比較的扱われることの少なかった、しかもホットな論点を大胆に取り上げることを試みる点にあると理解し得る。よって、本稿では単に「安全」「無難」(?)な保守的立場と福音主義の「境界線」確認に終わることのないよう留意し、後に続く議論と再構築の素材を提供するよう努めたい。

2011年3月11日に発生した東日本大震災、それに伴う東京電力福島第一原発のメルトダウン事故は、広範囲に甚大な被害をもたらすとともに、我々「聖書はすべて誤りなき神のことば」との聖書信仰を標榜する福音派教会に、さまざまな課題をも突きつけた。被災地における救援と復興支援では迅速かつ愛のこもった息の長い活動が継続され、一定の評価もなされている一方、自然災害と神のさばきの関連性、他宗教との協力、死者儀礼の問題、救援活動とみことばによる伝道との関係性や優先性、科学と科学技術の功罪、原発再稼働の是非や環境問題など、聖書からどのように考えたらいいのか、震災から三年が経過した今でも、十分な神学的議論や考察が復興支援ほどには進んでいないのが現状である。それは、聖書信仰を共有する福音派教会が、1974年のローザンヌ誓約における「伝道と社会的責任」との宣教定義以来、従来からの精力的伝道活動に加えて、聖書に基づく社会的活動を積極的に推進しつつも、端的に言えば「聖書信仰と社会的活動の関係性」についての議論や考察を十分には行って来ず、神学的深まりに欠けていたからではないか。聖書を誤りなき神のことば、信仰と生活の唯一絶対の規範と告白することが、どのような聖書的行動を生み出し、社会的責任を果たすわざに結びつくのか。「神を愛し、人を愛する」との、新約聖書に更新された二大基礎律法に基づいて愛のわざに携わる、というだけでは、創造から再創造に至る贖罪史と、地を治める使命遂行、終末を生きる神の民としてこの地に生かされている視点が欠落しており、言うなれば神学的には「地に足がついていないわざ」をもたらしかねない。

「福音主義の教理」をブラッシュアップする機会を与えられた本稿では、本丸である「聖書信仰と無誤性」の前後を、震災が残した神学的課題、特に「自然」および、無誤性との関係で避けては通れない創世記1～3章の新たな考察と、全宇宙を贖う主の物語に参加して地を管理する、神からの協働委託業務を遂行するわざへの召しで挟む、三部構成を採った。

II. 東日本大震災が残した福音主義の神学課題

1. 「自然」¹理解と組織神学的位置づけ ～自然災害は罪の結果か～
2. 「贖い」理解と地を統治する人間の務め ～包括的福音と宣教～
3. 創世記1章～3章の解釈学的可能性²

III. 福音主義のアイデンティティ「聖書信仰」

1. 福音主義神学の諸課題³
2. 聖書の無誤性に関する種々の見解⁴
3. 真の「聖書信仰」を目指して

IV. 福音主義の教理と聖書物語

1. 「福音の再発見」⁵ショック
2. 「天国行きの救い」から「神との協働による被造物管理」へ⁶
3. 主の物語を生きる⁷ ～終末を生きる神の民として⁸～

V. まとめ

-
- ¹ 分子生物学から神学へ転向したマクグラスは、この分野を扱う適任者であろう。A.E.マクグラス（芦名定道、杉岡良彦、濱崎雅孝共訳）『「自然」を神学する キリスト教自然神学の展開』（教文館、2011年） Alister E. McGrath, *The Open Secret A New Vision for Natural Theology*, Blackwell, 2008
 - ² 米国では近年、保守系キリスト教出版社からも以下のような書が出版されている。John H. Walton, *The Lost World of Genesis One Ancient Cosmology and the Origins Debate*, IVP Academic, 2009 ; Peter Enns, *The Evolution of Adam What the Bible Does and Doesn't Say About Human Origins*, Brazos Press a division of Baker Publishing Group, 2012
 - ³ 以下の書を参照した。Kevin T. Bauder, R. Albert Mohler Jr. John G. Stackhouse Jr., Roger E. Olson, *Four Views on The Spectrum of Evangelicalism*, Zondervan, 2011
 - ⁴ 以下の書を主に用いた。R. Albert Mohler Jr., Peter Enns, Michael F. Bird, Kevin J. Vanhoozer, John R. Franke, *Five Views on Biblical Inerrancy*, Zondervan, 2013
 - ⁵ スコット・マクナイト（中村佐知訳）『福音の再発見 ——なぜ“救われた”人たちが教会を去ってしまったのか』（キリスト新聞社、2013年） Scot McKnight, *The King Jesus Gospel The Original Good News Revisited*, Zondervan, 2011
 - ⁶ 中澤啓介は、組織神学に「自然」という項目を位置づけ直すとともに、ヘブル2：6-13の解釈から、福音主義神学の新たなパラダイムとして、「被造物管理の神学」を提唱している。中澤啓介「福音は被造物管理権の回復を含むのか」「現代のキリスト教はパラダイムシフトが必要である」『聞きたかった、隠されていた聖書の奥義』（個人出版、2013年）、中澤啓介『被造物管理の神学 自然1, 2, 3編』（2013年）『自然4, 5, 6, 7編』『自然8, 9, 10編』（2014年）
 - ⁷ ユニークで斬新な、ウェスレアン神学に基づく聖書の物語解釈として、以下を参照。マイケル・ロダール（大頭眞一訳）『神の物語』（日本聖化協会出版委員会、2011年） Michael Lodahl, *The Story of God a narrative theology 2nd edition*, Beacon Hill Press, 2008
 - ⁸ 神学書の範疇を超えるが、日本語で読める数少ないこのテーマの書として、以下がある。ポール・マーシャル（レラ・ギルバート協力、島先克臣訳）『わが故郷、天にあらざる この世で創造的に生きる』（いのちのことば社、2004年） Paul Marshall with Lela Gilbert, *Heaven is not My Home Living in the NOW of God's Creation*, W Publishing a division of Thomas Nelson Inc., 1998 後藤敏夫『改訂新版 終末を生きる神の民』（いのちのことば社、2007年）